



出中だより

第4号

発行 令和6年2月20日(火)

砺波市立出町中学校

言葉使いの、言葉遣い

校長 廣瀬 敬一

令和5年度もまとめの時期です。日頃の保護者や地域のみなさまのご理解・温かいご支援に、改めて感謝申し上げます。

「何事にも元気に取り組む生徒の育成」を本年度の重点としている本校の教育活動では、ことある毎に「本気」「根気」「元気」をキーワードとして、様々なメッセージを発信してきました。人と人との関係の中で「ことば」は重要な役割を果たします。教職員にも「ことば」「ことばかけ」については、「教育のプロとして大切にしましょう」と伝えています。わたし自身、教師生活や親として成長の奇跡・軌跡を目の当たりにする経験の中で、どのような「ことばのシャワー」を浴び続けるかは、子供にとって重要だと痛感してきているからです。

さて、こんなお話があります。

人一人がやっと通れる細い道を、中1の女の子とその親が歩いていました。そのとき、反対方向から若者が近づいてきます。先を歩いていた親は、さっと脇に寄って、若者が通り過ぎるのを待ちました。女の子も、親をお

手本にして、さっと脇に寄って待ちました。若者は、その二人の横をお礼を言わず、頭を下げることもなくすり抜けていきました。中1の子が親に小声で言いました。

「あの人、礼儀知らずやねえ。」

この子の親なら何と返事しましょうか? 「世の中にはあのような人もいるのよ。」「あのような人にならないでね。」「あなたはちゃんとお礼を言いなさい。」「きっと急いでいたのよ。」「何か考え事をしていたのかもしれないよ。」等々。もっとも残念なのは「・・・」の無反応だと思いますが、わたしが素敵だなと思ったある方の回答はこれです。

「わたしは、お礼を言われたくて道を譲ったのではないのですよ。」

自分の「ことば」かけは、出中学生の成長につながっているだろうか? あの時、もっと違う声かけができたのではないか? 日々反省です。

「何事にも元気に取り組む」出中生 ～学校評価アンケートより～

生徒に行ったアンケートでは、「学校生活は楽しい。」「自分の学級は、互いに認め合い、高め合っている。」「よりよい学校生活になるように、自分から行動することができた。」の各項目において、全校生徒の90%近くが「とてもそう思う」または「だいたいそう思う」と回答しています。

諸活動にどのように取り組めばよいのか、仲間と共に考え、取り組んでいることが、生徒の姿だけでなくデータの上からも確かめられたと感じます。今年度も残りわずかとなりましたが、引き続き、元気に取り組む出中生を全力で支えていきたいと思ひます。

令和6年度4月行事

- 4日(木) 始業式
- 5日(金) 入学式
- 16日(火) 創校記念式
- 20日(土) 授業参観
- 22日(月) 振替休業日



※学校ホームページ鋭意更新中→